



拜咎目下薄暑の御意を御

清穆奉頓にまして感念久

く欽仰す了正實に

渴想の至極に比年素

種々の忠厚情に預り誠に

難有く存じしを屢々

御定し考と致しし御

高教を伺厚くしんじ

も陸軍学校に入学せし

を以て死人と雖も無き道

に未だ而居の榮を得ず

いふき今般幸に卒業

せら山に比不日歸國





いんき今般幸に卒業  
せら山に比石日歸國  
の道に就くべき言に比に付き  
明十二日十時御暇を乞  
ふ為り且つ御教言を伺ふ  
べく今考館に何卒  
御面會を許し下度  
願と申上

先は取敢へず一寸也

上申也

勿々教具

六月十日

張厚琬

大隈伯爵

閣下

込 臣 鶴 卷 町

送 送



御函層在許... 顧上中比

先以取敢... 一寸中

上中比也... 勿之敬具

六月十日

張厚琬

大隈伯爵

閣下

込 臣 鶴 卷 町

速達

隈 伯爵 閣下

速達



大

鞠町居永日町信國心仕館

張厚琬